

2026年3月期 第2四半期 決算説明資料

2025年10月28日 日本瓦斯株式会社

AI

決算のポイント① 26/3期2Q実績(計画比)と見直し

営業利益は計画を上回った。下期を慎重に見積り、通期営業利益は据え置く

- 上期営業利益は計画比+3億。電気粗利が伸びて、販管費は顧客獲得費が計画を下回った。
- 通期営業利益200億は据え置く。下期の粗利計画は、LPの販売量と電気の利幅を慎重に見積って下げて見直す。一方販管費は、顧客獲得費を上期並の水準に見直したことで縮小する見直し。

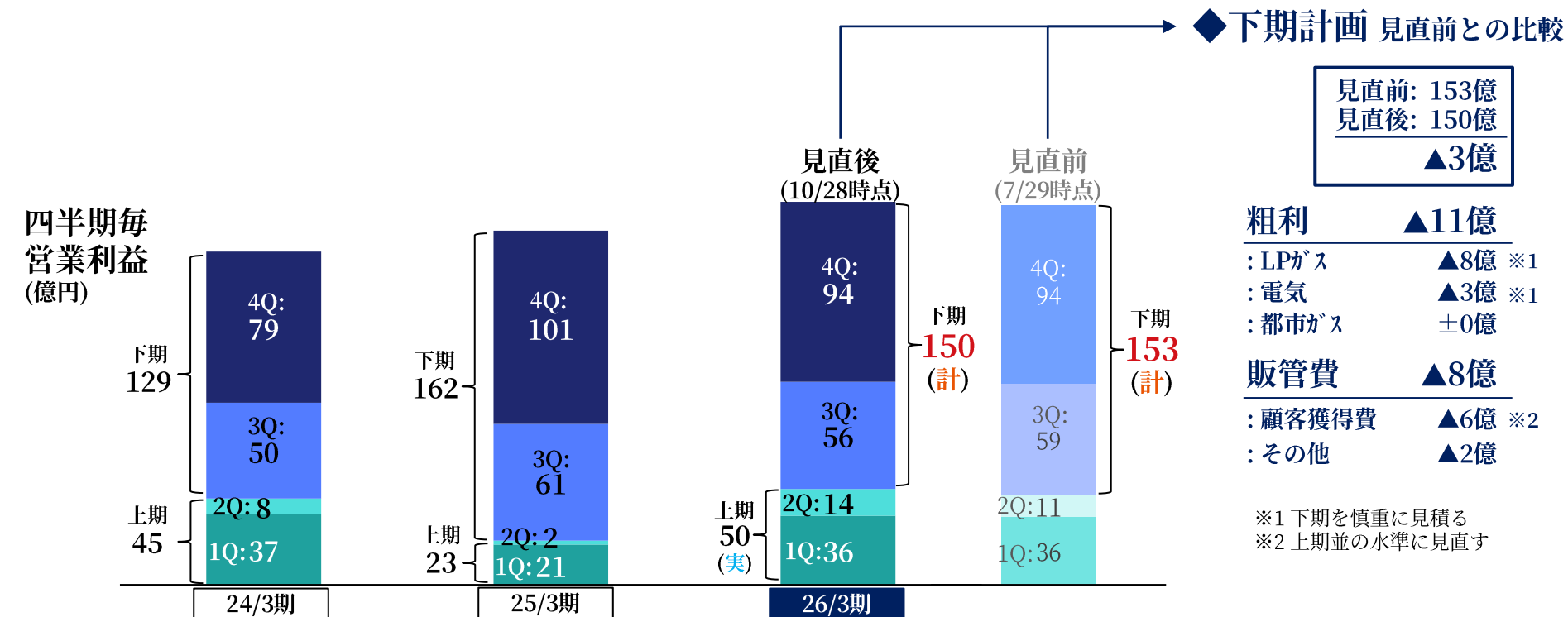
(億円)	26/3期(2Q/4-9月)		26/3期 通期計画		ポイント
	計画 (7/29時点)	実績	見直前	見直後	
粗利益	319	320	760	750	
LPガス	210	206	507	495	<ul style="list-style-type: none"> • 上期: 業務用が利幅縮小し減。家庭用は高気温の影響を受けた • 通期: 家庭用は量を慎重に見積る。業務用は原料価格を踏まえ利幅見直す
電気	26	31	56	58	<ul style="list-style-type: none"> • 上期: 燃料価格の動きがプラスに作用して収支良化 • 通期: 下期は利幅を慎重に見積り計画見直す
都市ガス	83	83	197	197	
内、スライドタイムラグ	+2.1	+1.9	+2.1	+2.5	<スライドラグ影響> <ul style="list-style-type: none"> • 通期: 新たに3Q想定(+0.6億)を計画に織り込む
販管費	272	270	560	550	<ul style="list-style-type: none"> • 通期: 下期の顧客獲得費を上期並の水準に見直す
営業利益	47	50	200	200	<ul style="list-style-type: none"> • 上期: 最高益を更新
純利益	33	34	140	140	
株主還元	-	-	203	203	<ul style="list-style-type: none"> • 新たに90億円の自社株買入れ枠を設定(詳細はP.17)
EPS	30.3円	31.5円	130.6円	129.6円	<ul style="list-style-type: none"> • 通期: 想定取得単価の見直しによる

決算のポイント② 26/3期営業利益見通し

営業利益はガス需要期の下期に偏重、26/3期下期の見通しに大きな変更なし

- 上期の営業利益は堅調な進捗。需要期の下期に3/4の利益を計画する。
- 下期の営業利益計画に大きな変更なし。粗利を慎重に見積もって引下げ、販管費は足元の水準を反映して縮小する見通し。

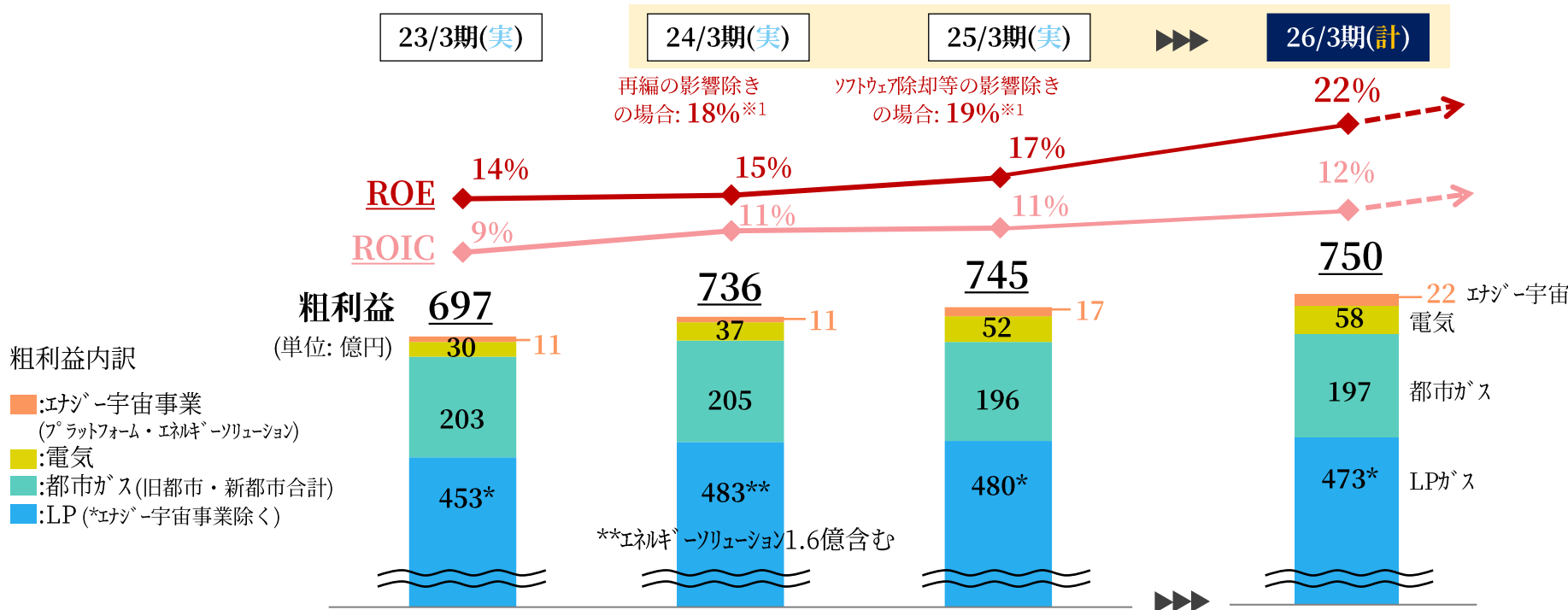
	24/3期(実)	25/3期(実)	26/3期
営業利益 (億円)	174 最高益	185 最高益	200(計) 最高益



決算のポイント③ 3ヶ年計画(24/3~26/3期) 利益の詳細

26/3期は営業利益200億、ROE22%を達成する。資本最適化しながらEPSを拡大

■ 26/3期は3ヶ年計画の最終年、営業利益、ROE目標を達成する。次期中計の重要ポイントは、LPの業界集約とプラットフォーム事業の成長。



全セグメント計 (億円)

粗利益	697	736	745	750
販管費	546	562	560	550
営業利益	151	174	185	200
純利益	106	108 ^{※2}	115	140
EPS	92.6円	95.6円	104.5円	129.6円

25/3期(実):
純利益115億円は
ソフトウェア除却損等の
特損▲19億を負担後

※1: 特損影響除きROEは対象となる特損(24/3期▲24億、25/3期▲19億)を純利益に単純合算し算出。税金は考慮せず ※2: 24/3期の純利益108億円は再編関連の特損▲24億を負担後

決算のポイント④ 3ヶ年計画 利益計画の前提

26/3期は電気、都市ガス、エナジー宇宙の粗利拡大で成長

(億円)	23/3期 (実)	24/3期 (実)	25/3期 (実)	26/3期 (計)	1Q時計画(7/29時点)からの変更点
粗利(全セグメント合計)	697	736	745	<u>750</u>	・760億→750億
LPガス(機器工事含むエナジー宇宙除く)	453	483	480	<u>473</u>	・485億→473億
期末顧客数(千件)(括弧内前期比)	973	997(+24)	1,030(+33)	1,070(+40)	
販売量(千トン) 家庭用/業務用	186/121	179/114	178/109	<u>179/105</u>	・上期実績を踏まえ、家庭用(181千トン→179千トン)、業務用(107千トン→105千トン)を見直す
家庭用利幅(円/kg)	212	233	232	232	
都市ガス(機器工事含む)	203	205	196	<u>197</u>	
販売量(千トン) 家庭用・業務用計	378	365	344	<u>339</u>	・上期実績を踏まえ▲3千トン減らし見直す(342千トン→339千トン)
電気	30	37	52	<u>58</u>	・56億→58億
期末顧客数(千件)(括弧内前期比)	320	345(+25)	381(+35)	431(+50)	
販売量(GWh)	1,297	1,427	1,587	<u>1,723</u>	・足元の顧客数を踏まえ見直す(1,760GWh→1,723GWh)
利幅(円/kWh)	2.3	2.6	3.3	<u>3.4</u>	・3.2→3.4円/kWh
エナジー宇宙事業(プラットフォーム)	11	11	14	<u>16</u>	
エナジー宇宙事業(エネルギーソリューション)	-	[1.6*]	3	<u>6</u>	

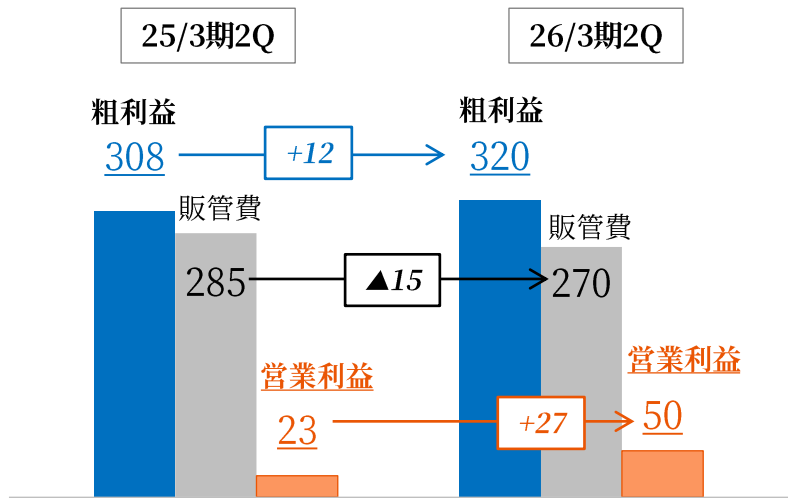
*LPガス粗利に含む

決算の実績① サマリー(25/4-9月) (前期比)

営業利益大幅増、上期最高益。粗利は電気が伸びて増。販管費は顧客獲得費が大きく減

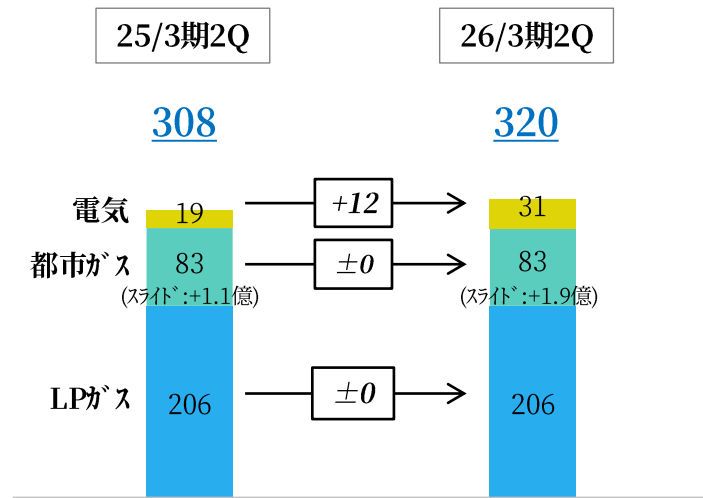
■ 営業利益は前期比+27億。粗利は前期比+12億、電気が顧客増と収支良化により伸長。LPと都市ガスは前期並、家庭用が顧客増で伸長し、業務用は販売量が伸びず減。販管費は前期比▲15億、顧客獲得費が大幅減。

粗利益/販管費/営業利益 (億円*)



粗利益内訳 (億円*)

*実数の単位未満は端数処理



全セグメント合計 (億円)	25/3期 (20/4-9月)	26/3期 (20/4-9月)	増減	ポイント
粗利益	308	320	+12	
販管費	285	270	▲15	・顧客獲得費が前期比▲15億
営業利益	23	50	+27	
販売量(千トン) LPガス	117	114	▲3	・家庭用は前期並。業務用が減、低採算の取引を見直した
都市ガス	147	142	▲5	・家庭用は前期並。業務用は工業用の製品需要が伸びず減
電気(GWh)	717	811	+94	・顧客増により伸長。単位消費量も前期比増

決算の実績② 販管費明細

上期は計画を下回った。通期は560億→550億に変更。下期の顧客獲得費は上期並に見直す

- 上期は計画比▲2億、顧客獲得費が計画下回った。1Q時の経費後ずれば2Qで吸収し下期に影響ナシ。
- 下期の販管費は計画比で縮小する見通し。下期の顧客獲得費を上期並の水準に見直した。通期では、計画比、前期比ともに▲10億円となる550億円を想定する。

*実数の単位未満は端数処理。進捗(%)は億円表示処理後で算出

販管費明細 (億円)	26/3期		進捗 *対通期計	ポイント	25/3期	
	(通期計)	(2Q実)			(通期実)	(2Q実)
1. 人件費	148	72	49%	・ 昇給率は4.5%。従業員あたりを増やす方針	141	70
2. 減価償却費 (*i)	82	40	49%		83	41
3. 顧客獲得費用 (*ii)	59→50	24	48%	・ 上期: 計画比▲3億、戸建中心にお客様増やしながらか得コストを改善 ・ 通期: 計画を▲9億引き下げる。下期は上期並の水準を計画	64	39
4. IT費用	44	23	52%	・ 上期: 前期比▲2億、システム保守など、委託業務の最適化により経費を削減。下期更に減少	49	25
5. 手数料等 (*iii)	48	25	52%		48	24
6. ガス関連機材等	36	20	56%	・ ガスボンベやメーターを上期に前倒して購入。下期は前倒し分の経費減を見込む	36	19
7. ガスボンベ運搬費	34	13	38%		33	14
8. 修繕費用 (*iv)	21→20	9	45%	・ 通期: 上期実績を踏まえて計画見直す	19	9
9. 租税公課・事業税	20	11	55%		20	12
10. 通信費 (*v)	11	5	45%		11	6
11. 広告宣伝費	11	4	36%		9	4
12. 旅費交通費	7	4	57%		7	3
13. コールセンター	5	2	40%	・ 上期: 前期比▲1億、AIによる顧客対応と社内教育で業務効率高め、拠点集約と省人化を実現	6	3
14. その他	34	18	53%		34	16
合計	560→550	270	49%		560	285

(*i) IT関連の償却は「4. IT費用」、のれんの償却は「14. その他」に計上 (*ii) 顧客獲得費用はLPガス、都市ガス、電気に係る営業費用とサービス品の合計 (*iii) 24/3期から「保安・検針費等」を「5. 手数料等」に統合 (*iv) ボンベや機材等の修繕費、ボンベ検査費用 (*v) 顧客とのコミュニケーション費用、スペース並通信費用

決算の実績③ LPガス事業(前期比)

粗利前期比横ばい。家庭用は顧客増で微増、業務用は原料価格の動きが利幅に影響

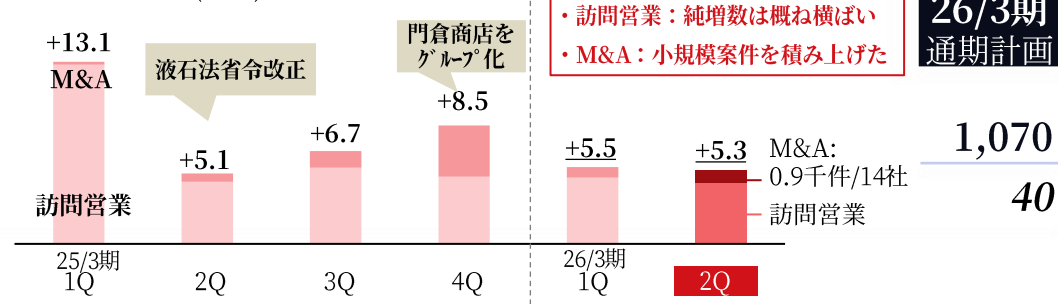
- 粗利は前期比横ばい。家庭用は顧客増で前期比+1億。業務用は原料価格の動きが影響し利幅縮小。上期お客様純増数は11千件。戸建中心にお客様増やしながら、顧客獲得費を低減。
- 下期の粗利計画は、気温の最新見通しを反映しながら単位消費量を慎重に見積って見直す。

*実数の単位未満は端数処理。 *増減は億円表示処理後で算出

LPガス(億円)	25/3期 (20/4-9月)	26/3期 (20/4-9月)	増減	ポイント	26/3期 通期計画
粗利益	206	206	0		495
内、ガス	188	186	▲2	・家庭用は前期比+1億、業務用は前期比▲3億 ・利幅：家庭用は前期並。業務用は縮小、原料価格の動きがマイナスに作用した。家庭用の割合が高まり全体で利幅良化	448
kgあたり(家庭用+業務用)	161円	163円	+2円		158円 (家庭用+業務用)
内、プラットフォーム(PF)	7	7	0		16
内、機器その他(内、エネルギーソリューション)	11(1.3)	13(1.9)	+2(+0.6)	・高性能ガス給湯器の販売が伸長	31(6)
ガス販売量(千トン)	117	114	▲3		284
家庭用	65	65	0	・家庭用：前期並。顧客増の一方、単位消費量は前期比減	179
業務用	52	49	▲3	・業務用：低採算の取引を減らし前期比減	105

LPガス	25/3期 (20/4-9月)	26/3期 (20/4-9月)	増減
お客様数(千件)(9月末時点)	1,015	1,041	+26
純増数(千件)	18	11	▲7

<純増数の推移(千件)>

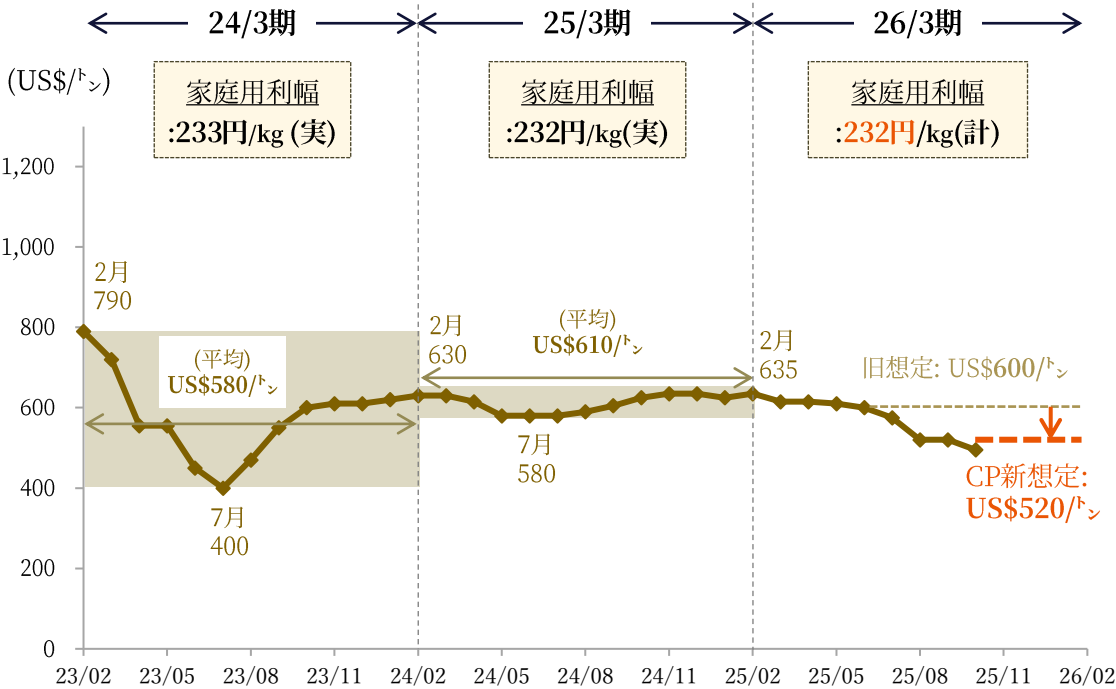


LPガス原料価格(CP)の推移

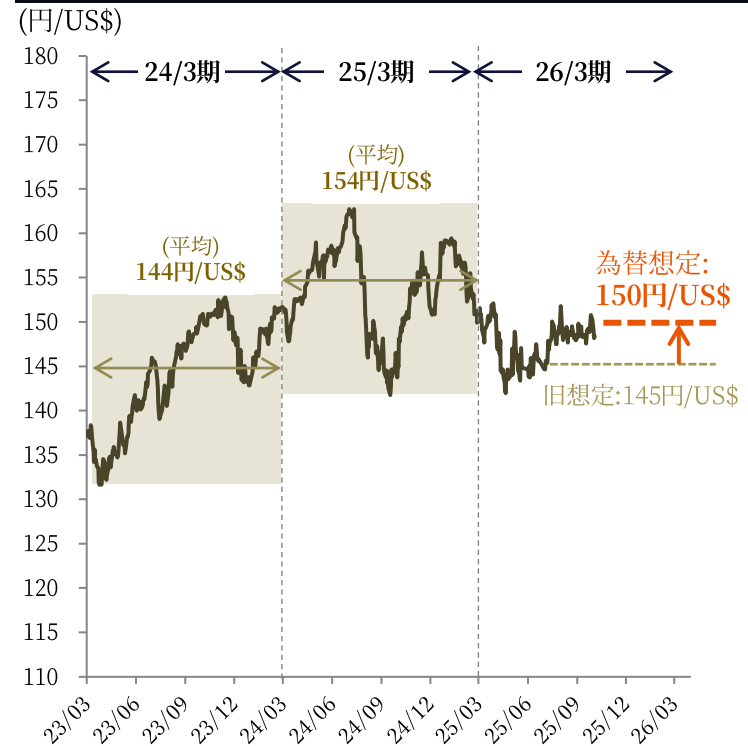
上期原価は概ね想定通り。下期はCPと為替の想定を見直す。通期利幅計画に変更なし

■ 上期原価は概ね想定通り、家庭用利幅は前期並かつ想定通りとなった。通期家庭用利幅も前期並の232円/kgに据え置く。下期はCP想定がUS\$520/トン、為替は150円/US\$とする。

LPガス原料価格(CP)の推移



為替相場(TTS)



(US\$/トン)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2023年	590	790	720	555	555	450	400	470	550	600	610	610
2024年	620	630	630	615	580	580	580	590	605	625	635	635
2025年	625	635	615	615	610	600	575	520	520	495		

*ハイライトは26/3期上期の原価
 * CPは概ね2~3ヶ月後の原価を構成
 * ほぼ変動なく販売価格改定可能
 (商品の性質上、対象外もあり)

決算の実績④ 電気事業(前期比)

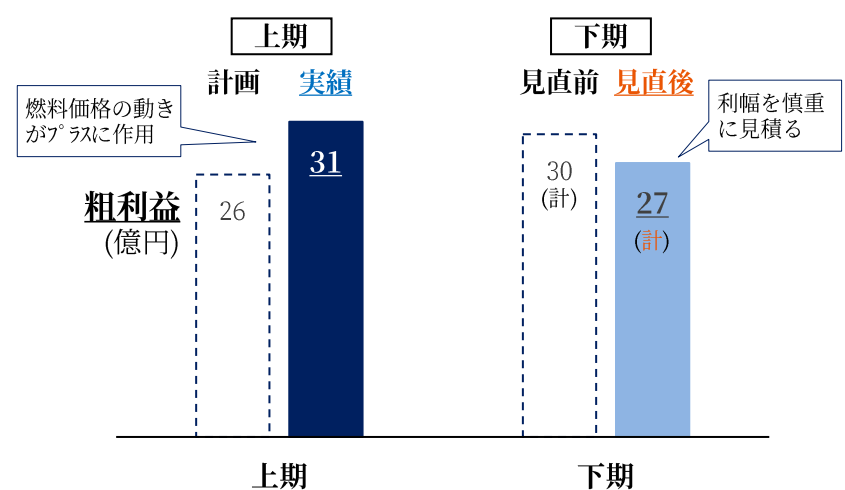
粗利大幅増益、計画も上回った。販売量が伸びて利幅も拡大。通期計画は58億に見直す

- 粗利は前期比+12億。販売量が顧客増により伸長。利幅は燃料価格の動きもプラスに作用して良化。上期お客様純増数は14千件。コミュニティに向けた営業施策やWeb申込を強化している。
- 通期計画は、下期を慎重に見積ったうえで、56→58億に見直す。

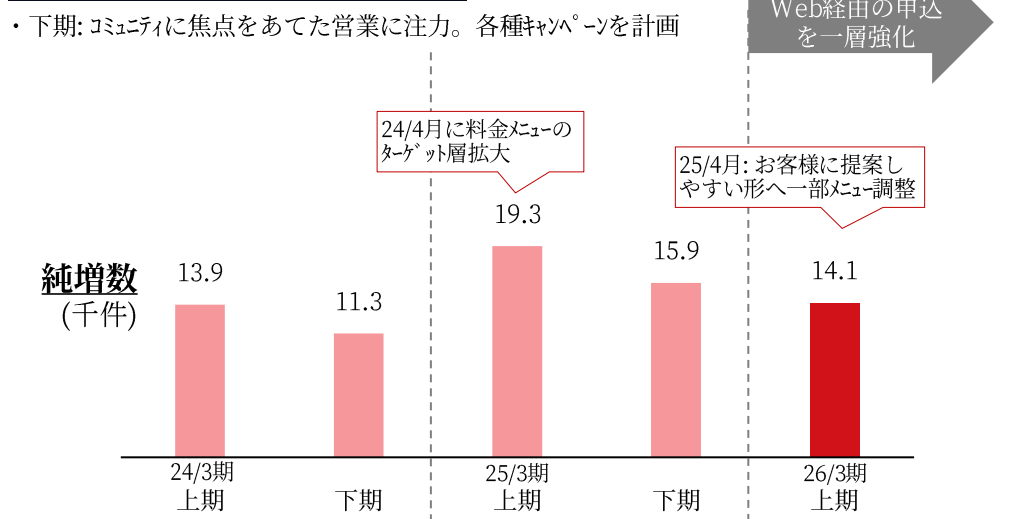
*実数の単位未満は端数処理。 *増減は億円・千件表示処理後で算出

電気	25/3期 (20/4-9月)	26/3期 (20/4-9月)	増減	ポイント	26/3期 通期計画
粗利益(億円)	19	31	+12	<ul style="list-style-type: none"> 粗利: 前期比+12億、計画比+5億 利幅: 通期で3.4円/kwhを計画 	58
kWhあたり	2.6円	3.8円	+1.2円		3.4円
お客様数(千件)(9月末時点)	365	395	+30	<ul style="list-style-type: none"> 電気セット率: 24%(前期比+1%) 25/7-9月に販促キャンペーン実施、Web申込数が伸長 	431
純増数(千件)	19	14	▲5		50
電気販売量(GWh)	717	811	+94	<ul style="list-style-type: none"> お客様数の増加により伸長。単位消費量も前期を超えた 	1,723

26/3期の粗利益(計画比)



お客様純増数の推移



決算の実績⑤ 都市ガス事業(前期比)

粗利前期比横ばい。家庭用はスラト`プラス影響で増。業務用は販売量が減。純増数は8千件

■粗利は前期並。家庭用はスラト`ラグ`の`プラス影響で利幅拡大し粗利増。業務用は大口需要が伸びず販売量減。上期お客様純増数は8千件。スポ`ーツなどのコミュニティ向け営業が好調、安定して純増が継続。

*実数の単位未満は端数処理 *増減は億円表示処理後で算出

都市ガス(億円)	25/3期 (2Q/4-9月)	26/3期 (2Q/4-9月)	増減	ポイント	26/3期 通期計画
粗利益	83	83	0		197
内、ガス	73	73	0		175
内、スラト`タイムラグ`	+1.1	+1.9	+0.8	<ul style="list-style-type: none"> 2Q(4-9月)スラト`影響は+1.9億(想定比▲0.2億) 3Q(10-12月)想定+0.6億を通期計画に新たに織り込む 	+2.5
内、託送収益等	5	5	0		11
内、機器・工事等	5	5	0		11
ガス販売量(千ト)	147	142	▲5		339
家庭用	52	52	0	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用: 顧客増の一方、高気温影響で単位消費量が伸びず 	150
業務用	95	90	▲5	<ul style="list-style-type: none"> 業務用: 前期比減。工業用の国内向け製品需要が伸びず 	189
9月末時点の 小売件数/純増数(千件)	590/▲11	598/+8	+8/+19	<顧客純増数の推移(千件)>・東京ヴェルディなどコミュニティ向け営業が好調 	610/+20
内、旧都市	388/+1	389/+1	+1/0		394/+5
内、新都市	202/▲12	209/+7	+7/+19		216/+15

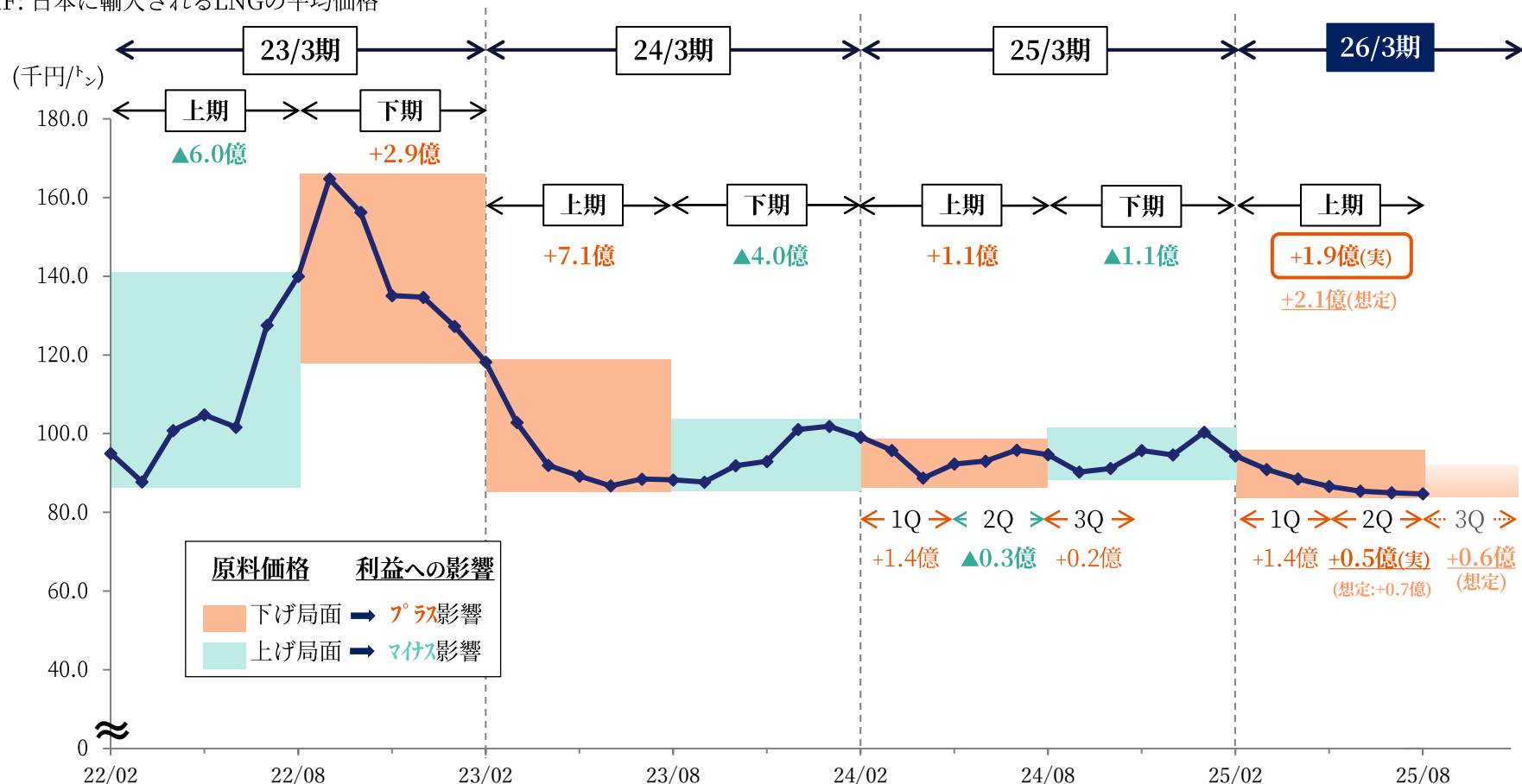
都市ガス原料費調整(スライドタイムラグ)の影響

上期(4-9月)スライド影響は+1.9億。新たに3Q(10-12月)想定+0.6億を通期計画に織り込む

- 上期(4-9月)プラス影響は+1.9億、前期比+0.8億。25/2月以降の原料価格は緩やかに下落。
- 3Q(10-12月)の原料価格は小幅な動きを想定、3Q想定+0.6億を通期計画に新たに織り込む。

LNG原料価格(CIF)*の推移

*CIF: 日本に輸入されるLNGの平均価格



決算の実績⑥ エナジー宇宙事業

概ね計画通り。LP競合のプラットフォーム利用進展。エネルギーは需要高まる下期に機器販売伸ばす

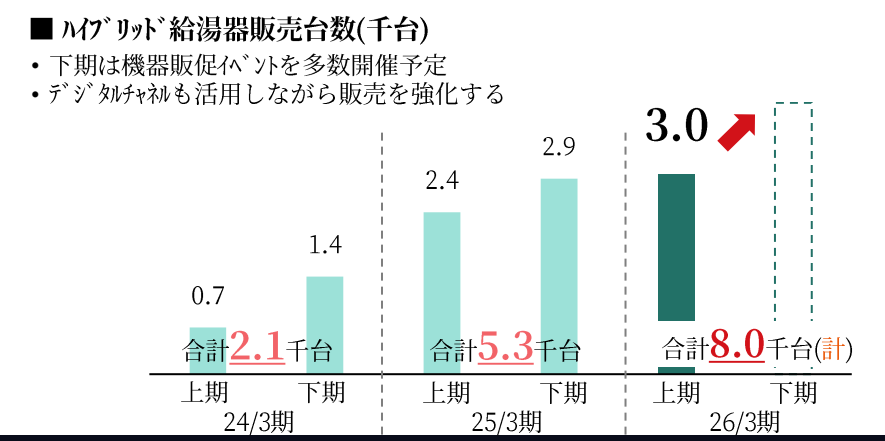
- プラットフォーム(PF)：LPオペレーション全般でPFニーズが高まっている。保安PFは受託エリア拡大して伸長、下期にLP他社の保安受託も開始する。
- エネルギーソリューション：ハイブリッド給湯器の上期販売台数は3千台(前期比+0.6千)。ガス機器需要が高まる秋口に機器販促イベントを多数開催、通期8千台の販売を目指す。

プラットフォーム(億円)	25/3期	26/3期	
	(2Q実)	(2Q実)	(通期計)
粗利益	6.8	7.5	16
1). LPG託送(スペース缶、充填・配送、新保安PF)	2	3.1	6
2). 新都市PF、PF77°リ、工事PF等	4.8	4.4	10

ポイント

- スペース缶・充填・配送
 - LP会社へのPF提供を小規模でスタート。人員不足等の課題を背景に、インフラやシステムのシェアリングが業界全体で徐々に拡大
- 新保安PF
 - 新システム導入でオペレーション効率化、受託エリアを拡大し案件数が増加
 - 下期からLP会社の保安受託を開始
- ・前期比▲0.4億。工事PFが減、前期に大口案件を計上

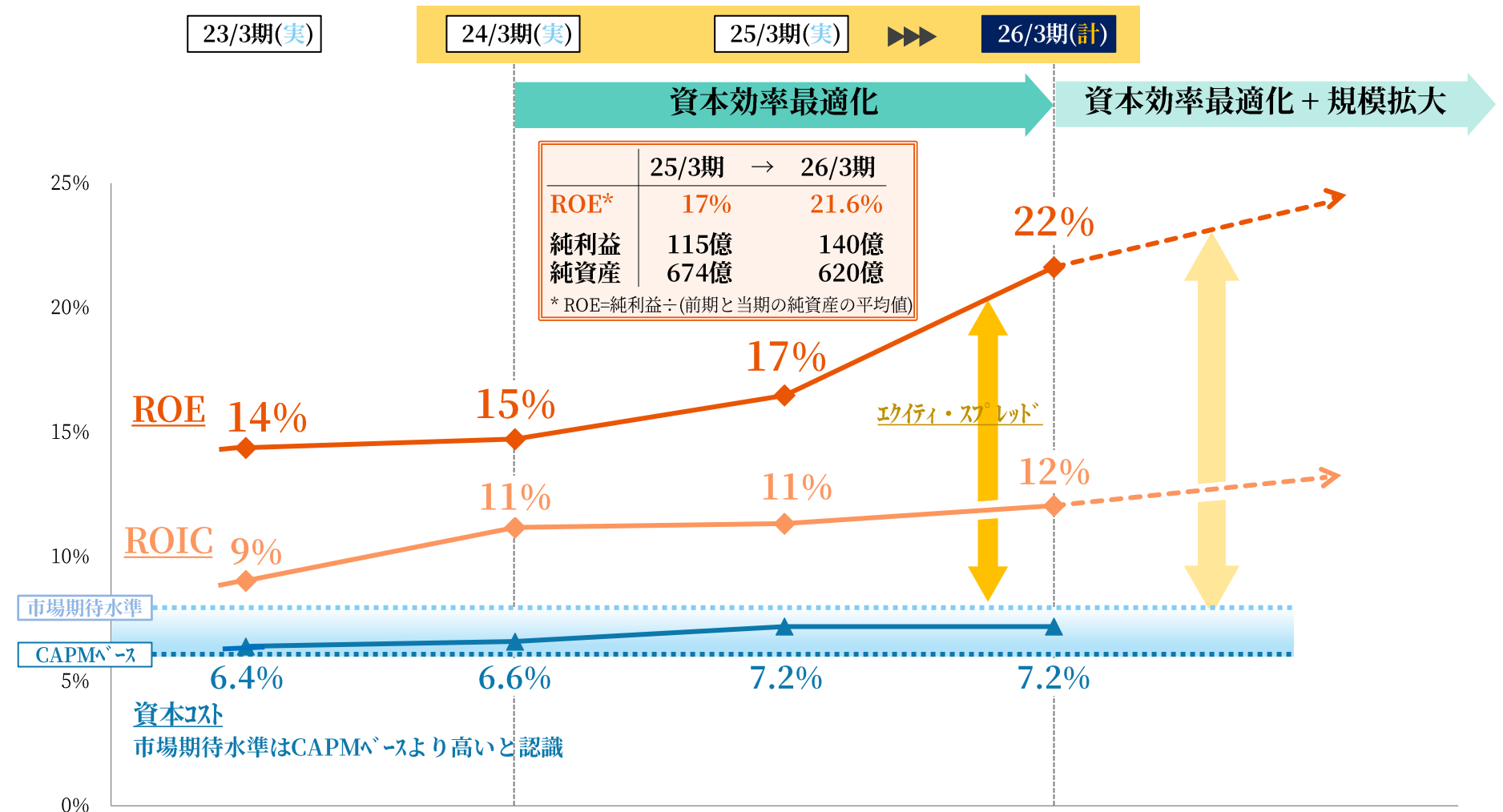
エネルギーソリューション(億円)	25/3期	26/3期	
	(2Q実)	(2Q実)	(通期計)
粗利益	1.3	1.9	6
ハイブリッド給湯器(台)	2.4千	3.0千	8千



資本戦略① ROIC・ROEの計画 (24/3期-26/3期)

26/3期はROIC12%、ROE22%を計画。27/3期以降もROEの更なる向上を目指す

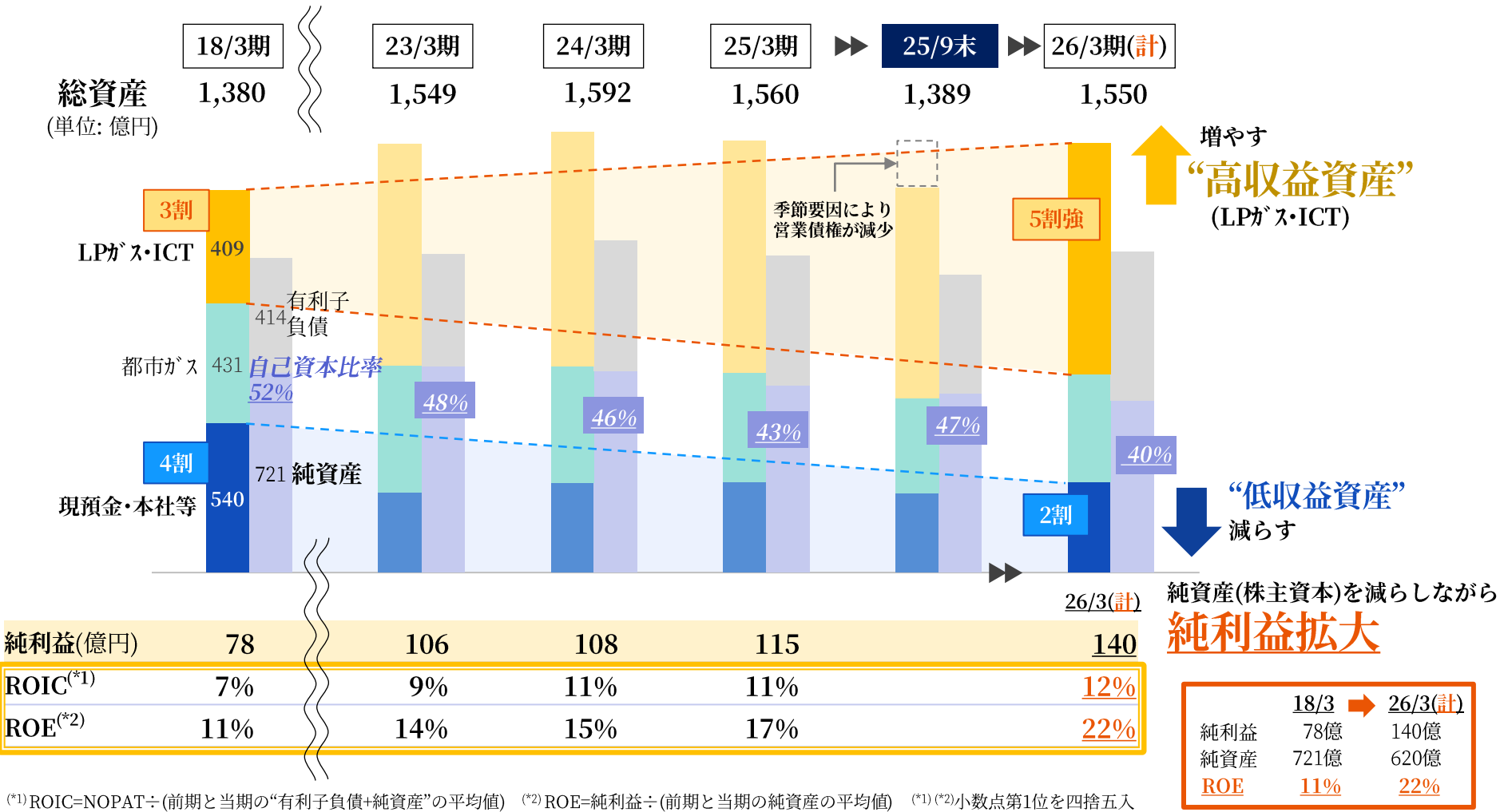
■ 26/3期のROE22%は、ROIC向上と資本構成最適化により達成する。27/3期以降も不必要な株主資本は持たない方針を継続し、業界集約を通じて規模を拡大しながらROE向上を目指す。



資本戦略② B/S

資産規模を大きく変えずROICを向上。さらに株主資本を最適化しながら純利益を拡大

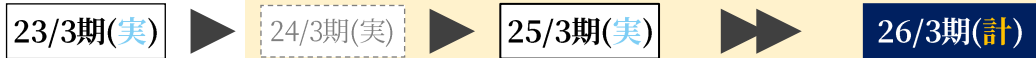
■ 26/3期はROIC12%、ROE22%を計画。資産の入替により総資産を大きく増やさずにROICを高めてきた。さらに自己資本比率を40%まで最適化しながら純利益を拡大し、ROEを向上させる。



資本戦略③ 資本調達(自己資本比率)最適化

自己資本比率を40%に引き下げる。3年間で資産規模は変えず、資本構成を最適化

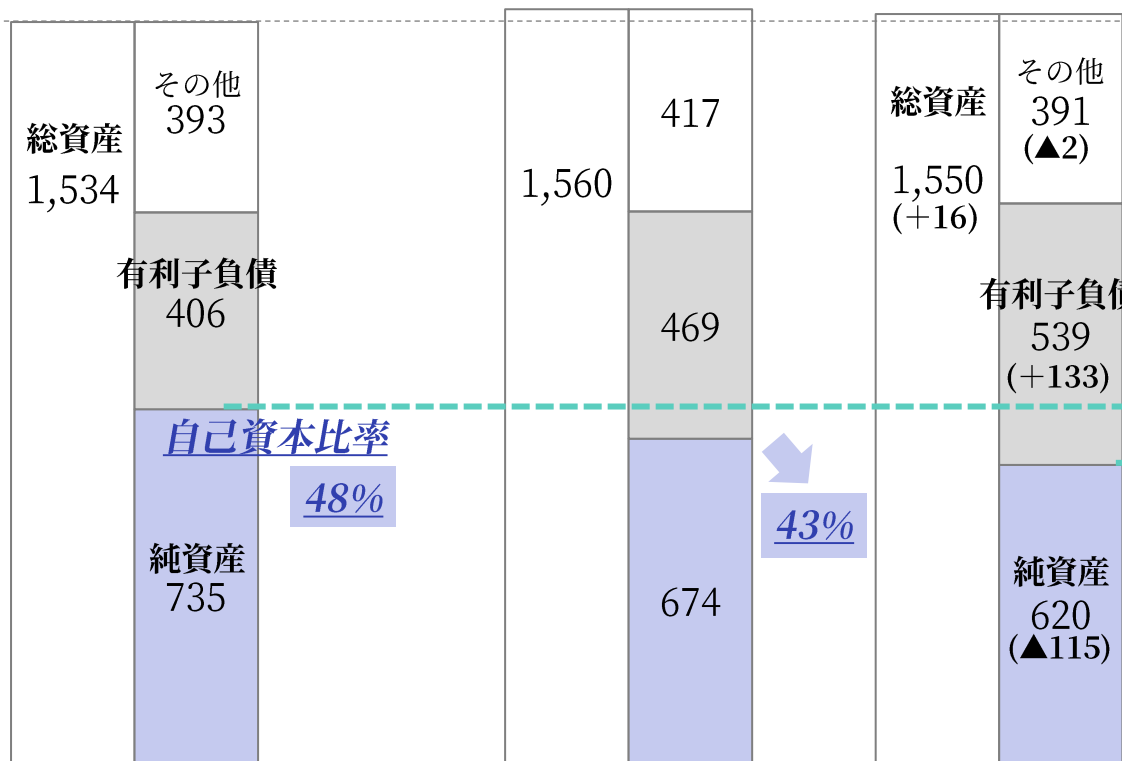
■ FCF伸びてバレッジリスク負担能力が向上、3年間で自己資本比率を48%→40%に引き下げて最適化する。所要自己資本の減少に伴う不必要な株主資本は還元する。



※23/3期の数字は都市ガス収益認識基準適用前。短信(収益認識基準ベース)の数値と異なる。

※括弧内の数字は23/3期比

(単位: 億円)



資本最適化による還元

- 資産規模変えず、自己資本比率を48%→40%に引き下げる
- ↓
- 所要自己資本は減少
735億 - 620億 = **115億**
- ↓
- 不必要な株主資本は還元する
(総還元性向**100%超**)

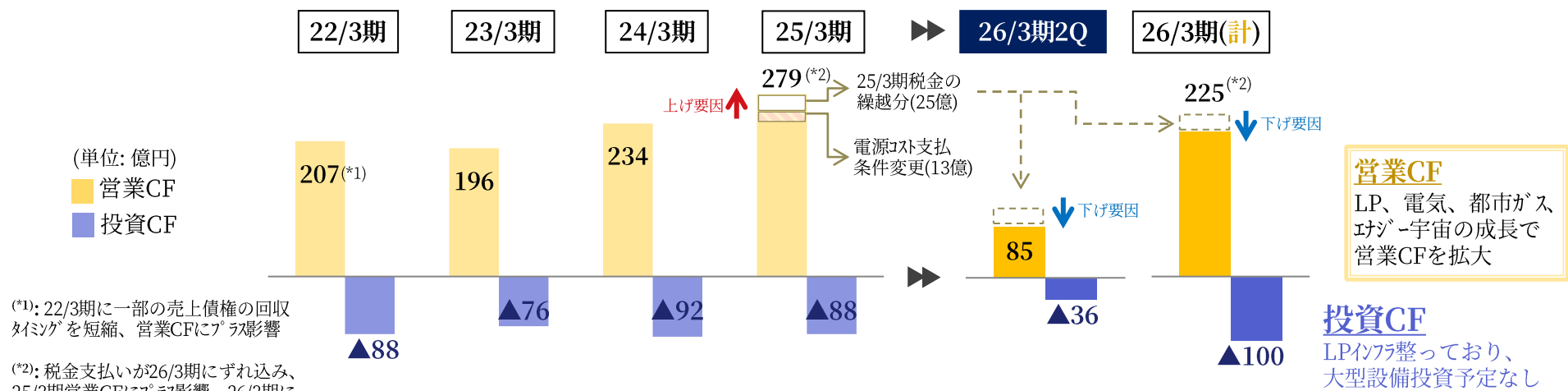
115億 (還元額)

自己資本比率最適化
48% → 40%

資本戦略④ Cash Flow

26/3期の営業CFは前期のプラス影響が解消し減。投資CFは大規模インフラ投資の予定なし

■ 上期の営業CFは前期比▲6億、前期の税金支払いが今期にずれ込み、営業CFにマイナス作用。投資CFは、LPインフラ整っており大規模設備投資は予定しない。M&Aの機会を取込み利益拡大に繋げる。



FCF	+119	+120	+142	+191	+49	+125
財務CF	▲74	▲161	▲87	▲184	▲109	▲125

投資内訳(億円)	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期2Q	26/3期(計)
LPG	34	16	25	24	6	45 ▲40 (償却)
内、LP 商圏買収	内、3	3	5	11	2	内、25 内、▲9
ICT	21	29	30	21	8	10 ▲17
旧都市	43	33	41	45	22	45 ▲52
その他(投資有価証券等)	▲10*	▲2*	▲5*	▲2*	0	0

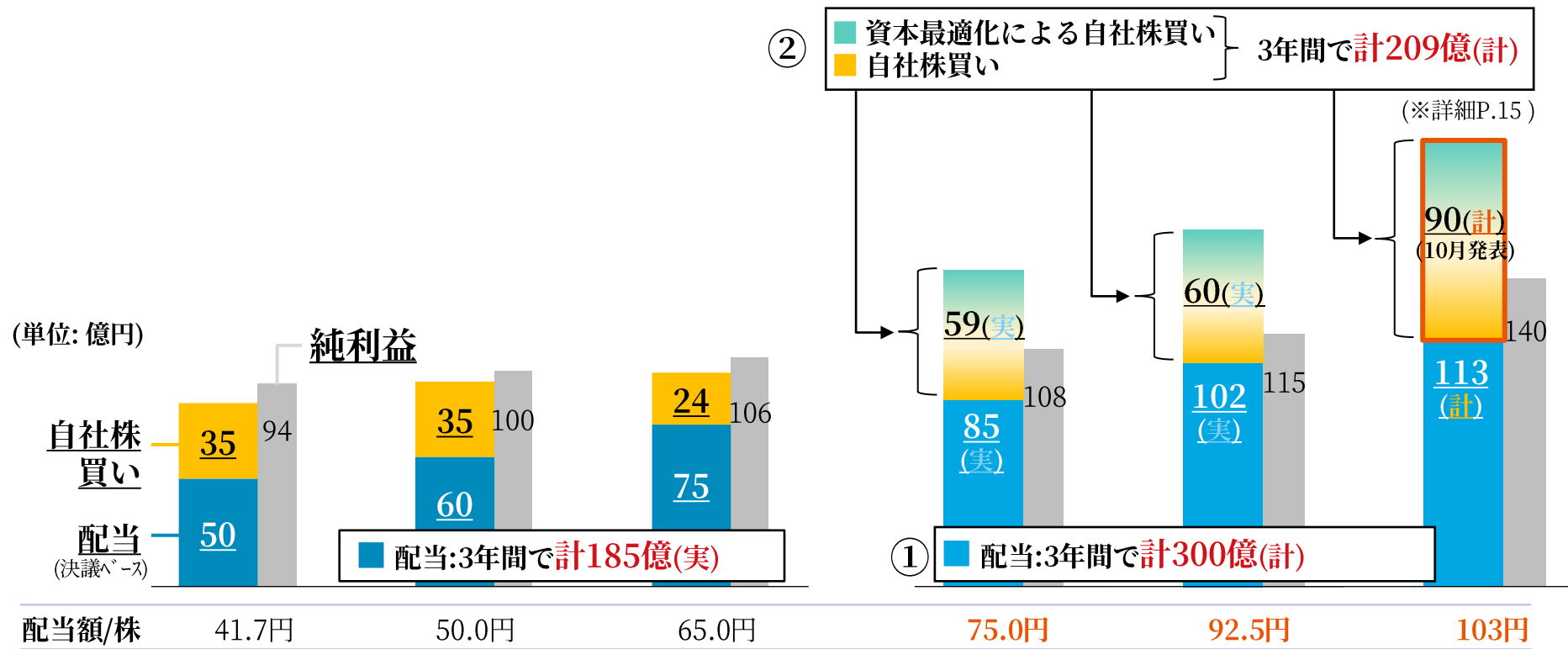
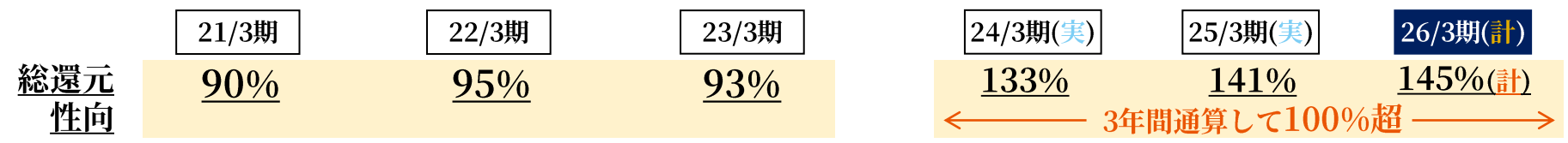
✓LPG: M&A投資は必要に応じて積み増す
 ✓ICT: 新規投資は漸減、25/3期からは運用フェーズへ

(*マインスマークはキャッシュフローにプラス)

資本戦略⑤ 株主様への還元

26/3期総還元性向は145%を計画。25/10月に90億円の自社株買入れ枠を設定

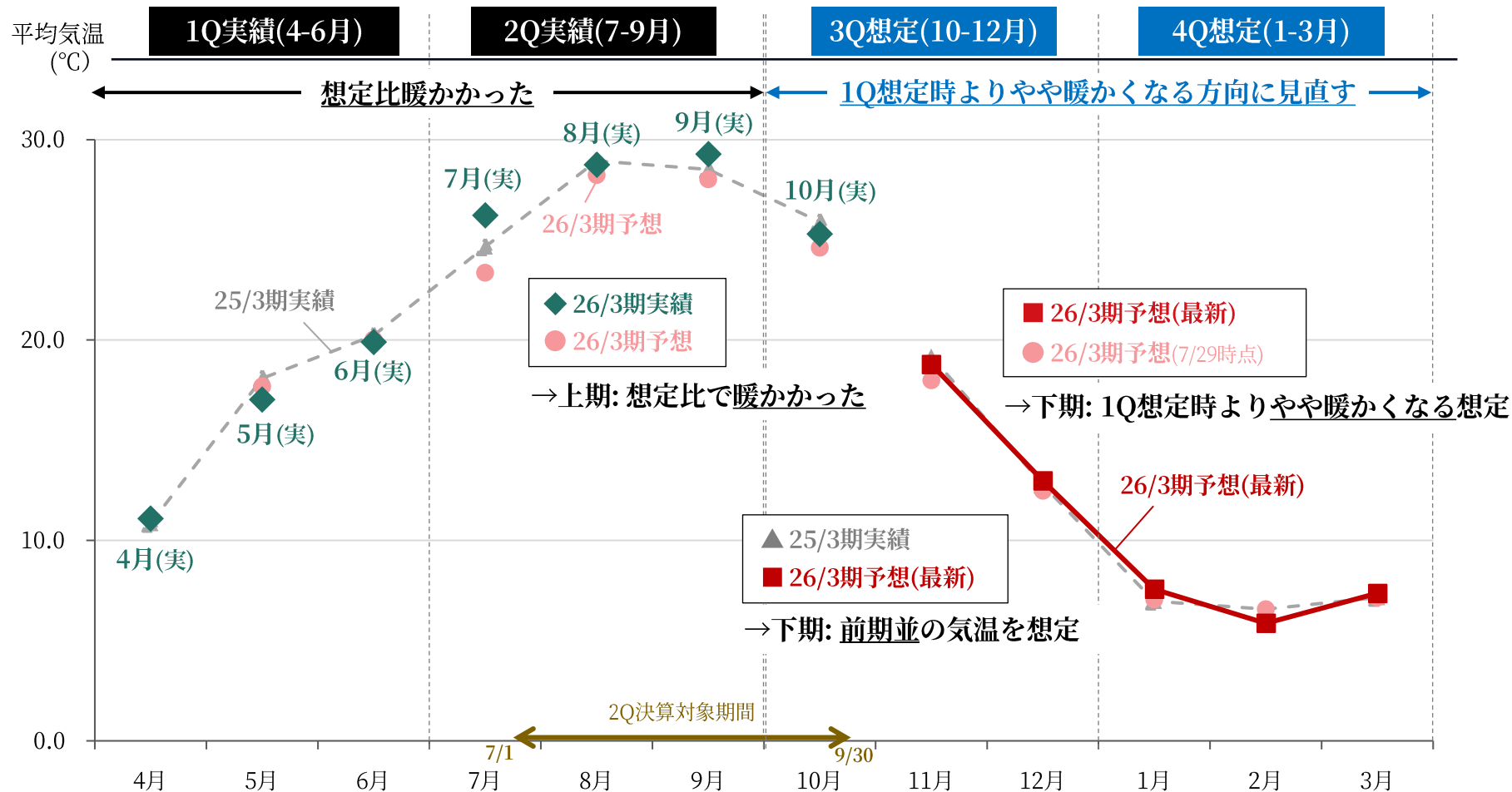
■株主還元により資本構成を最適化。26/3期の総還元性向は145%を計画。今期の自社株買いは、取得期間10/29~3/31で90億円(上限)の買入れ枠を設定。



平均気温

上期は想定比で暖かい気温となった。下期気温は前期並、単位消費量は慎重に見積る

- 上期の平均気温は想定比暖かかった。7-9月にかけて昨年を上回る記録的な猛暑の影響を受けた。
- 下期気温は前期並を想定。1Q想定時よりやや暖かくなる方向に見直す。単位消費量は感応度の想定より慎重に見積る。



(*1):26/3期の気温予想は、専門情報機関の情報に基づき当社作成。

(*2):気温実績は東京都の平均気温(参照元:気象庁ホームページ)

26/3期の利益計画詳細

下期の粗利計画は、LPの販売量と電気の利幅を慎重に見積って下げて見直す

	上期 (4-9月)			コメント	下期 (10-3月)			通期計画	
	25/3 (実)	26/3			25/3 (実)	26/3(計)		26/3(計)	
		(計)	(実)			見直前	見直後	見直前	見直後
LPガス(家庭用)	(7/29発表)(10/28発表)			(7/29発表)(10/28発表)			(7/29発表)(10/28発表)		
粗利益(億円)	172	174	173	243	247	241	421	414	
販売量(千トン)	65	66	65	113	115	114	181	179	
利幅(円/kg)	266円	263円	265円	214円	214円	213円	232円	232円	
単位消費量(kg/件)	76kg	76kg	75kg	132kg	130kg	128kg	206kg	203kg	
							・ 2Qの販売単価が計画比上振れた		
							・ 高気温影響で伸びず		
							・ 家庭用利幅に大きな変更なし。CP想定はUS\$520/トン、為替は150円/US\$とする		
							・ 下期気温は前期並を想定する一方、単位消費量は慎重に見積る		
LPガス(業務用)									
粗利益(億円)	17	16	13	23	23	21	39	34	
販売量(千トン)	52	50	49	57	57	56	107	105	
							・ 原料の動きがマイナスに作用して利幅縮小		
都市ガス									
粗利益(億円)	73	73	73	101	102	102	175	175	
販売量(千トン)	147	144	142	197	198	197	342	339	
							・ 3Qのサイトプラス影響(+0.6億)を織り込む		
							・ 下期気温は前期並を想定する一方、単位消費量は慎重に見積る		
電気(主に家庭用)									
粗利益(億円)	19	26	31	33	30	27	56	58	
販売量(GWh)	717	799	811	870	961	912	1,760	1,723	
利幅(円/kWh)	2.6円	3.2円	3.8円	3.9円	3.1円	3.0円	3.2円	3.4円	
							・ 冷房需要が伸び計画比上振れた		
							・ 燃料価格の動きがプラスに作用し利幅良化		
							・ 足元の顧客数を踏まえ見直す		
							・ 燃料価格の動きを慎重に見積る		